

認知意味論的アプローチに基づいた英語句動詞の指導

A Cognitive-Semantics Approach to Teaching English Phrasal Verbs

森本俊

Shun MORIMOTO

慶應義塾大学政策・メディア研究科後期博士課程

Keio University, Graduate School of Media and Governance

Abstract

Although phrasal verbs are one of the most productive categories in English and frequently used in everyday conversation, they have been notoriously regarded as one of the trouble spots many learners face in learning English. It has been argued that difficulty can be attributed to factors as to semantic transparency, syntactic irregularity, and polysemous nature of phrasal verbs. The present paper argues that insights can be drawn from the field of cognitive semantics for facilitating the acquisition of phrasal verbs, making use of the key concepts as to the core meaning, image-schema and schema-blending. In addition, focus will be put on the semantic attributes of the subject and the object of phrasal verbs, and the linguistically covert space in which the object is located. Based on the semantic analysis, procedures for teaching phrasal verbs will be presented.

Keywords

Phrasal Verbs, Core Meaning, Image-schema, Schema-blending

1. はじめに

句動詞は英語において最も生産的な言語カテゴリーの一つであり(Bolinger, 1971), 日常会話で頻繁に使われるものであるが, 同時に多くの第二言語学習者にとって習得が極めて困難とされている(Cornell, 1985; Side, 1990)。これは句動詞に内在する意味的明瞭性や統語的な不規則性といった要因に加え, これまでの英語教育で体系的な指導が行われてこなかったことに起因すると考えられる。本稿では, 認知意味論の知見を応用し, 学習者が句動詞を「使い分けつつ, 使い切る」ことができるようになるための指導法案を提示する。具体的な分析事例として hold in 及び keep in を取り上げる。

2. 認知意味論的アプローチによる句動詞の捉え方

2.1 句動詞のタイプ

句動詞は統語的な観点から以下の6つのタイプに分類することができる。

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| ① 自動詞＋副詞 | 例) slow down |
| ② 自動詞＋前置詞 | 例) count on someone |
| ③ 自動詞＋副詞＋前置詞 | 例) put up with something |
| ④ 他動詞＋副詞 | 例) take off your shoes |
| ⑤ 他動詞＋前置詞 | 例) take her to the supermarket |
| ⑥ 他動詞＋副詞＋前置詞 | 例) give back the money to her |

本稿では句動詞を「動詞と副詞が結びつき一つの動詞として機能するもの」と定義し、これら6つのタイプのうち、④の他動詞＋副詞に焦点を絞って議論を行うこととする。このタイプの句動詞を取り上げる理由としては、句動詞全体の中で圧倒的な数を占めること、そして学習者にとって他動詞＋副詞と他動詞＋前置詞の識別—動詞の後ろに続く名詞が動詞の目的語であるか、空間詞の必要情報であるのか—が極めて困難であることが挙げられる。⑥に関しては④のタイプに前置詞が加わる応用事例として捉えることが可能であるため、本稿では扱わない。

意味的な観点から句動詞を捉えると、以下のような4つのタイプに分類することができる(田中・佐藤・阿部, 2006)。

- ① 副詞で表された状態になる : come, go, run, turn, fall, etc.
- ② 副詞で表された状態にさせる : bring, put, let, get, etc.
- ③ 副詞で表された状態を保持する : hold, keep, stay, remain, etc.
- ④ 動詞で表された動作を行い、副詞で表された状態になる(する) : take, break, etc.

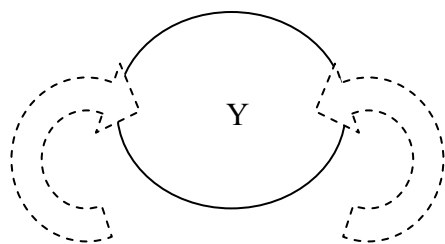
本稿で扱う hold in 及び keep in は上記③のタイプに分類される。したがって両者は「副詞 in で表された状態を保持する」という意味づけを要請する。

2.2 コア

一般に名詞は知覚対象や観念対象を指示する機能(対象指示機能)を持つのに対し、動詞は対象となる項を関連付け、コト化する統叙機能と意味表示機能を担う品詞である。換言すると、動詞の意味はそれがどのような項を取るのかによって関数的(「動詞(X, Y)」)に決定されるということになる。例えば動詞 break を BREAK (X, Y) という関数式として捉えた場合、BREAK (He, Y) の Y 項に the vase が来た場合、He broke the vase. のように「(花瓶を)壊した」という意味になり、Y 項が his promise の場合は He broke his promise. のように「(約束を)破った」となる。このように、break は対象として具象・抽象を含め様々なものを取るが、人はこれら一連の用例に触れることを通して、break がもつ用例横断的な核となる意味(core)を体得する。コアはその性質上文脈から独立しており、それが文脈的調整(contextual modulation)を経ることにより、文脈に依存した語義(sense)が生まれるというのが田中(1990)の主張するコア理論である。

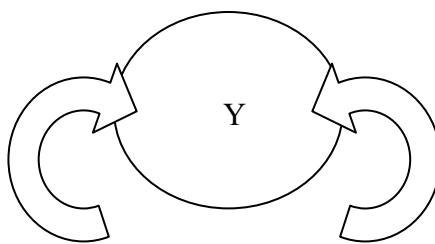
以上の理論的背景を踏まえ、『E ゲイト英和辞典』では、hold のコアを「自分の空間内

(HAVE 空間)に一時的におさえておく」, keep のコアを「自分のところに, 比較的長い間保つ」と記述している。また, 両者のコアは以下の図式として表すことができる(これをコア図式と呼ぶ)。hold と keep は HAVE 空間内に対象を収める点で共通しているが, 時間的な側面——一時的か比較的長い間か——が使い分けるポイントとなる。したがって, 例えばタクシーの運転手に対して Please keep the change.と言うと「お釣りは取っておいて下さい」という意味になるのに対し, Please hold the change.とすると「お釣りを少しの間持っていて下さい」と不自然な意味になってしまう。



X HOLD

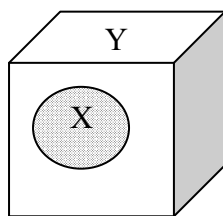
hold のコア図式
(X HOLD Y)



X KEEP

keep のコア図式
(X KEEP Y)

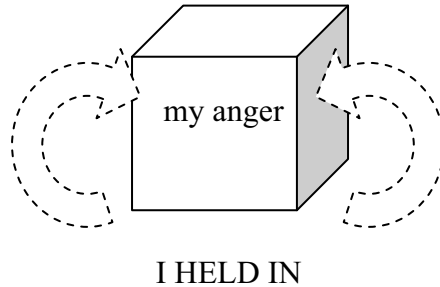
前置詞は, 2つのモノの空間関係を表示することが主たる機能であるため, 動詞と同様その意味を「前置詞(X, Y)」のように関数的に記述することが可能である。例えば an apple in the box の場合, IN (apple, box)という関数式で表すことが可能であり, in は「リンゴを箱の内部に位置させよ」という意味づけを要請する。Y 項には典型事例として物理的に明確な境界線をもった三次元空間(例: box, building)が入るが, 他にも Look at the girl running in the rain. や There is a grasshopper in the grass. のように, 必ずしも明確な境界線をもたない空間も取り得る(田中, 1990 はこの空間を擬似物理的空間 quasi-physical space と呼んでいる)。Y 項にはさらに He fell in love. や We are in trouble. のように形をもたない抽象的な空間も入る。しかし, 擬似物理的空間及び抽象空間いずれの場合でも, Y をあたかも三次元の空間として見立て, その中に X を位置させよという空間化(spatialization)機能を in が持つことには変わりはない。したがって, in のコアは「空間内」と記述することができ, 次のようなコア図式で表すことが可能である。



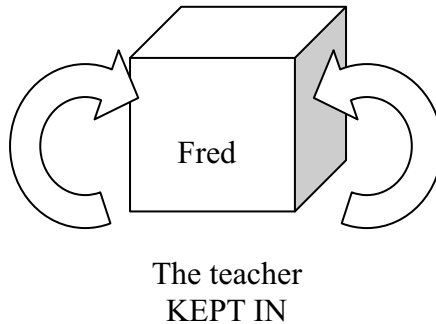
in のコア図式
(X IN Y)

2.3 図式融合による句動詞の捉え方

句動詞の意味は、前項で見た動詞及び前置詞のコアを基に、両者の図式を融合(図式融合)させることにより理解することが可能である。例えば **I held in my anger** という用例は、次のように **hold** と **in** のコア図式を組み合わせたものとして図示することができる。ここで表されているように、この文から主語である **I** が自らの空間内に怒りを(一時的に)おさえたという事態が構成される。



同様に **The teacher kept Fred in after school for punishment** は、「先生がフレッドを比較的長い間空間内(この場合は学校)にいさせる」と解釈できる。ここでも句動詞の意味は **keep** と **in** 双方のコアが融合し、文脈的調整を経ることによって創出されている。



図式融合という認知的操作は、人の身体感覚と結びついているため句動詞の様々な意味を理解する上で有効であるが、必ずしも万能とは言えない。学習者は往々にして自らが融合した図式内で解釈可能な用例にまで句動詞を過剰汎化させてしまう可能性があるためである。例えば学習者は **hold in** を学習した直後に、「少しの間私のカバンを持っていて」という文を与えられた場合、**Please hold in my bag for a minute** としてしまうことが考えられる。この場合、「聞き手が自らの **HAVE** 空間内に (**in**) カバンを一時的におさえておく (**hold**)」という解釈が成り立ち、図式融合の観点からも矛盾をきたすことはない。つまり、多くの学習者は、**HAVE** 空間内に収めることが可能なものは全て **HOLD IN** することが可能であるという仮説を立て、それを非慣用的な状況へと転用してしまうと考えられる。

このような学習者による句動詞の過剰汎化に制約をかけるためには、それが使用される典型事例(プロトタイプ)を析出することが必要となる。具体的には主語や目的語にどのよう

な意味的属性を持つものが典型的に現れるのかに関する情報を意識化させることが鍵となる。さらに、句動詞の場合、目的語が位置される空間が言語として表現されない(言表化されない)ものも数多く見られる。例えば *He held in his anger.* の場合、彼が怒りを hold したことは言表化されているが、その怒りがどこに in されたのかは示されていない。しかし、前置詞の持つ空間化(spatialization)機能が副詞として句動詞に組み込まれた場合においても保持されるという前提を立てると、この文においても IN (X, Y) の構造が備わっていると考えることができる。この場合、怒りは常識的に自らの心の中におさえられるものであるため、IN (his anger, MIND) と記述することができる。したがって、hold in には「<感情を><心の中に>(一時的に)おさえておく」という典型用例があることが分かる。本稿では、言表化されない空間詞(X, Y)のYがどのような空間であるかを予測関数的に記述することが、句動詞の習得を促進し、図式融合の過剰汎化を抑える可能性を秘めていることに着目したい。尚、Yの空間が言表化されない理由については、それが自明であるが故に言語の経済性の観点から表現されないという点と、空間として言語で明示的に表現するにはあまりにも抽象的・観念的であるという点が考えられる。

2.4 hold in と keep in の基本フレーム

以下、『Eゲイト英和辞典』及び *Collins COBUILD Phrasal Verbs Dictionary* に記載されている用例を通して、①hold in と keep in の主語及び目的語としてどのような対象が典型的に現れるのか、②目的語が位置づけられる、言表化されない in の空間は何であるかを分析していく。

HOLD IN の用例

- (1a) In some cultures, men are expected to **hold in their emotions.**
- (2a) Women are expected to **hold in their anger.**
- (3a) She wanted to cry but **held in the tears.**
- (4a) Depression can be traced to **holding in anger.**
- (5a) Go ahead and cry. Don't **hold it in.**
- (6a) I didn't know anybody personally that was killed that day, but I couldn't **hold my emotion in.**
- (7a) The teacher **held Fred in** after school for punishment.

これらの用例を HOLD(X, Y)と IN(X, Y)の要素に分解すると、次の(1b)から(7b)のようになる。

- (1b) HOLD (men, their emotions) + IN (their emotions, MIND)
- (2b) HOLD (women, their anger) + IN (their anger, MIND)
- (3b) HOLD (she, the tears) + IN (the tears, MIND)
- (4b) HOLD (HUMAN, anger) + IN (anger, MIND)
- (5b) HOLD (HUMAN, it) + IN (it, MIND)

(6b) HOLD (I, my emotion) + IN (my emotion, MIND)

(7b) HOLD (the teacher, Fred) + IN (Fred, 3D container)

ここでは、hold の主語として人が典型的に使われており、目的語として(1)から(6)では emotions や anger といった人間の感情を表す名詞が見られる一方、(7)では人が目的語として取られていることが分かる。次に、それぞれの対象が位置づけられる空間を分析すると、常識的に感情は心の中 (MIND) に位置づけられるのに対し、人間は典型的には建物などの物理的な三次元空間となる。この分析を基に、hold in が取り得る典型的なフレームを記述すると次のようになる。

1. [人] HOLD [感情] IN [心]

→ 人が感情を心の中に(一時的に)おさえておく

2. [人] HOLD [人] IN [建物]

→ 人が人を建物の中に(一時的に)引き留めておく

尚、これらのフレームは典型事例(プロトタイプ)であるため、例えば[人]のスロットに人以外の生物が入ることもある。次に keep in の用例を見ていこう。

KEEP IN の用例

(1c) How did you **keep your anger in**?

(2c) Most people say that it's never good to **keep in your anger**.

(3c) I couldn't **keep my emotion in**.

(4c) I had a mixture of feelings, I felt very sad when I found out my dad had cancer. It shocked me, I tried to **keep my sadness in** but every time I was lonely I thought of him.

(5c) You should **keep your children in**. A big storm is coming.

(6c) **John** was **kept in** at school one day last week.

(7c) **We**'ll all be **kept in** after school.

(8c) They **kept her in** overnight for observation.

これらの用例を KEEP(X, Y)と IN(X, Y)の要素に分解すると、次の(1d)から(8d)のようになる。

(1d) KEEP (you, your anger) + IN (your anger, MIND)

(2d) KEEP (HUMAN, anger) + IN (your anger, MIND)

(3d) KEEP (I, my emotion) + IN (my emotion, MIND)

(4d) KEEP (I, my sadness) + IN (my sadness, MIND)

(5d) KEEP (you, your children) + IN (your children, 3D container)

(6d) KEEP (HUMAN, John) + IN (John, 3D container)

(7d) KEEP (HUMAN, we) + IN (we, 3D container)

(8d) KEEP (they, her) + IN (her, 3D container)

keep in は主語として典型的に人を取る一方、目的語は感情と人に大別される。感情が目的語にきた場合、hold in と同様、それが位置されるのは自らの心の中(MIND)である。また、目的語が人の場合は、典型的に家や病院などの物理的三次元空間となる。以上の分析を踏まえ、keep in の典型的なフレームを抽出すると、次のようになる。

1. [人] KEEP [感情] IN [心]

→ 人が感情を心の中に(比較的長い間)おさえる

2. [人] KEEP [人] IN [建物]

→ 人が人を建物の中に(比較的長い間)いさせる

これらの基本フレームを hold in のものと比較すると、主語の属性や句動詞の目的語及び空間詞 in によって目的語が位置づけられる空間が共通していることが明らかになる。「人が人を建物の中に位置させる」と「人が感情を自らの心の中に位置させる」は hold in と keep in に共通するフレームであることを鑑みると、両者の意味の違いは句動詞を構成する動詞の意味の違いに起因することになる。1.のフレームの場合、hold が持つ「一時的に空間内にとどめる」というコアから、(5a)のように「(一時的に)学校にいさせる」という意味が生まれる。一方 keep のコアは「比較的長い間空間内にとどめる」であるため、(1c)の例のように、嵐が過ぎ去っていく一定期間人をとどめておくという解釈となる。句動詞の目的語が感情の場合、hold では込み上げてくる感情を一時的にぐっとおさえておくという状況になるのに対し、keep では感情が表に出ないように意識的に自らの心の中に一定期間おさえておくという解釈となる。仮に「hold in, keep in = 感情をおさえておく」のように英語と日本語を対応させる提示法を採った場合、両者の微妙なニュアンスの違いを的確に捉えることができなくなってしまうのは明らかであろう。

3. 指導法の試案

以上の分析を基に、hold in 及び keep in の指導法の試案を素描する。尚、ここでは動詞 keep と hold 及び空間詞 in のコアや図式について学習者がある程度理解していることを前提として論を進める。

STEP 1 : 用例の提示

対象となる句動詞の用例群を学習者に提示する。その際、上の分析で見たように2つの典型フレームから用例を集める。主語と目的語に予め下線を引いておくこと次のステップでの作業をスムーズに進めることができる。

(1) John was **kept in** at school one day last week.

(2) We'll all be **kept in** after school.

(3) They **kept her in** overnight for observation.

(4) Most people say that it's never good to **keep in your anger**.

(5) **I** couldn't **keep my emotion in**.

(6) I had a mixture of feelings, I felt very sad when I found out my dad had cancer. It shocked me, **I** tried to **keep my sadness in** but every time I was lonely I thought of him.

STEP 2: 主語, 目的語, 言表化されない IN の空間についての意識を高める

学習者に keep in の主語にどのようなものが使われているかを尋ねる。更に、主語が何を keep in するのかを考えさせ、人と感情に分類できることを確認する。最後に、学習者がもっている世界についての知識を援用しながら、人と感情がそれぞれどこに IN されるのかを引き出す。先に見たように、人の場合は典型的には建物、感情の場合は心の中となる。

STEP 3: KEEP IN の基本フレームの確認

以上を踏まえ、keep in がもつ 2 つの基本フレームを学習者に提示する。

1. [人] KEEP [人] IN [建物]

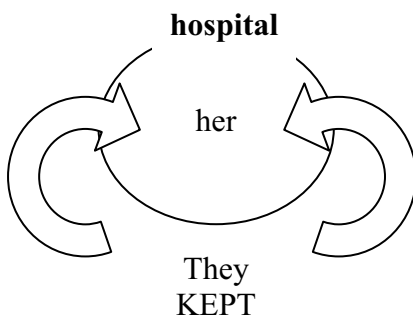
→ 人が人を建物の中にいさせる

2. [人] KEEP [感情] IN [心]

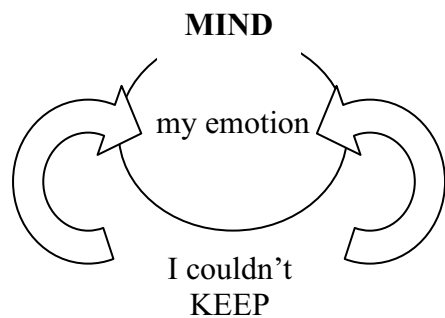
→ 人が感情を心の中におさえる

STEP 4: 図式融合による視覚的理解

keep と in のコア図式を提示し、両者が融合された時にどのようなイメージになるかを視覚的に理解させる。ここでは具体例として、(3)と(5)の例を挙げる。この際、主語・句動詞の目的語・言表化されない IN の空間を明示することが重要である。



(3) They **kept** her **in** overnight for observation.



(5) I couldn't **keep** my emotion **in**.

STEP 5: 同様の手順で hold in を導入する

典型パターンは同じだが、keep と hold それぞれのコアの違いによって意味の違い(一

時性・持続性)が生まれることを意識させる。類似した用例を意識的に比較・対照することにより、両者を使い分けることができるよう理解を促す。

尚、本稿で取り上げた **keep in** と **hold in** は、副詞 **in** を共通項として有しているが、上記の方法は特定の動詞に対して複数の副詞が結合する場合(例: **keep in, keep off, keep out**)にも応用することが可能である。

4. おわりに

以上、認知意味論的アプローチに基づく英語句動詞指導の可能性について考察し、具体的な指導法案を提示した。句動詞の指導においては、①構成要素である動詞と副詞のコア及び両者のコア図式を理解させること、②2つのコア図式がどのように融合されるかを理解させること、そして③句動詞が取り得る典型的なフレームを理解させること、特に、言表化されない「空間詞(X, Y)」のYの空間が何であるかを意識させることが必要不可欠となる。本稿では句動詞のタイプの中で他動詞＋副詞の表現に焦点を絞って議論を行ったため、今後他のタイプを包含する形で体系的な指導への方策を模索する必要性が残されている。また、句動詞の中には本稿で扱った **hold in** や **keep in** のように副詞の前置詞性が強いものと、**Please hold on.** などのように弱いものがある。さらに、**He walked across the street.** のように副詞が方向を表すものもあるため、本稿で提示した言表化されない空間詞(X, Y)の値を明示化させる試みの有効性は副詞の性質によって異なることが予想される。したがって、句動詞を提示する上でこの方法論はあくまでも選択肢の一つとして位置づけられなければならない。

参考文献

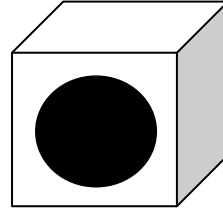
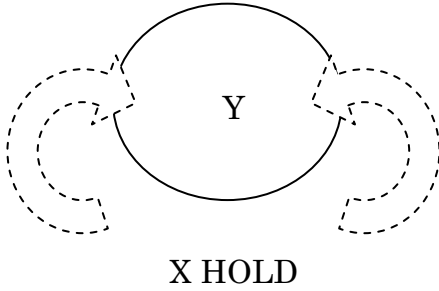
- Bolinger, D. (1971). *The phrasal verb in English*. Cambridge: Harvard University Press.
- Cornell, A. (1985). Realistic goals in teaching and learning phrasal verbs. *International Review of Applied Linguistics*, 23(3), 269-280.
- Side, R. (1990). Phrasal verbs: Sorting them out. *ELT Journal*, 42(2), 144-152.
- 田中茂範 1990. 『認知意味論 英語動詞の多義の構造』 三友社出版.
- 田中茂範・佐藤芳明・阿部一 2006. 『英語感覚が身につく実践的指導 コアとチャンクの活用法』 大修館書店.
- 田中茂範・武田修一・川出才紀編 2003. 『E ゲイト英和辞典』 (株)ベネッセコーポレーション.

SEE

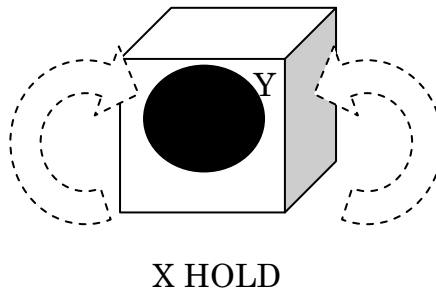
I . hold in

hold のコア 「(一時的に)おさえておく」

in のコア 「空間内」



融 合



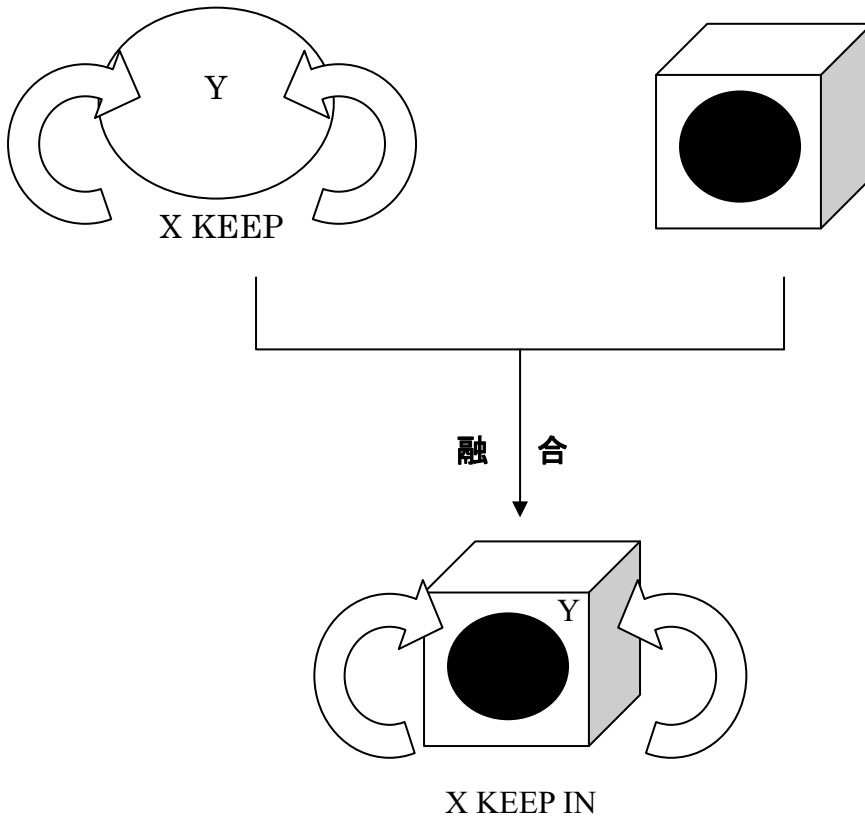
hold in の基本フレーム:

- ① [人が] 《人・動物を》 <建物の中に> (一時的に)留めておく
例文: The teacher **held** Fred **in** after school for punishment.
- ② [人が] 《感情を》 <心の中に> (一時的に)おさえておく
例文: In some cultures, men are expected to **hold in** their emotions.

II. keep in

hold のコア 「(一時的に)おさえておく」

in のコア 「空間内」



keep in の基本フレーム:

- ① [人が] 《人・動物を》 <建物の中に> (一定期間) 留めさせる
例文: John was **kept in** at school one day last week.
- ② [人が] 《感情を》 <心の中に> (一定期間) おさえておく
例文: It is never good to **keep in** your anger.

REDO

A. 次の文の意味を考えましょう。

1. They kept her in overnight for observation.
2. They held the students in after school for punishment.
3. Depression can be traced to holding in anger.
4. I tried to keep my sadness in but every time I was lonely I thought of him.

B. 以下の状況をふまえて文を完成させましょう。

1. 彼にふられたばかりの親友に一言
Go ahead and cry. Don't _____.
2. 自分だったら怒りが爆発していたのに、よく我慢できたね
How did you _____?
3. 嵐が通り過ぎるまで子どもたちは家の中にいさせないと
You should _____.
4. 警察は取り調べのため容疑者を(一時的に)拘留しています
The police are _____ for investigation.